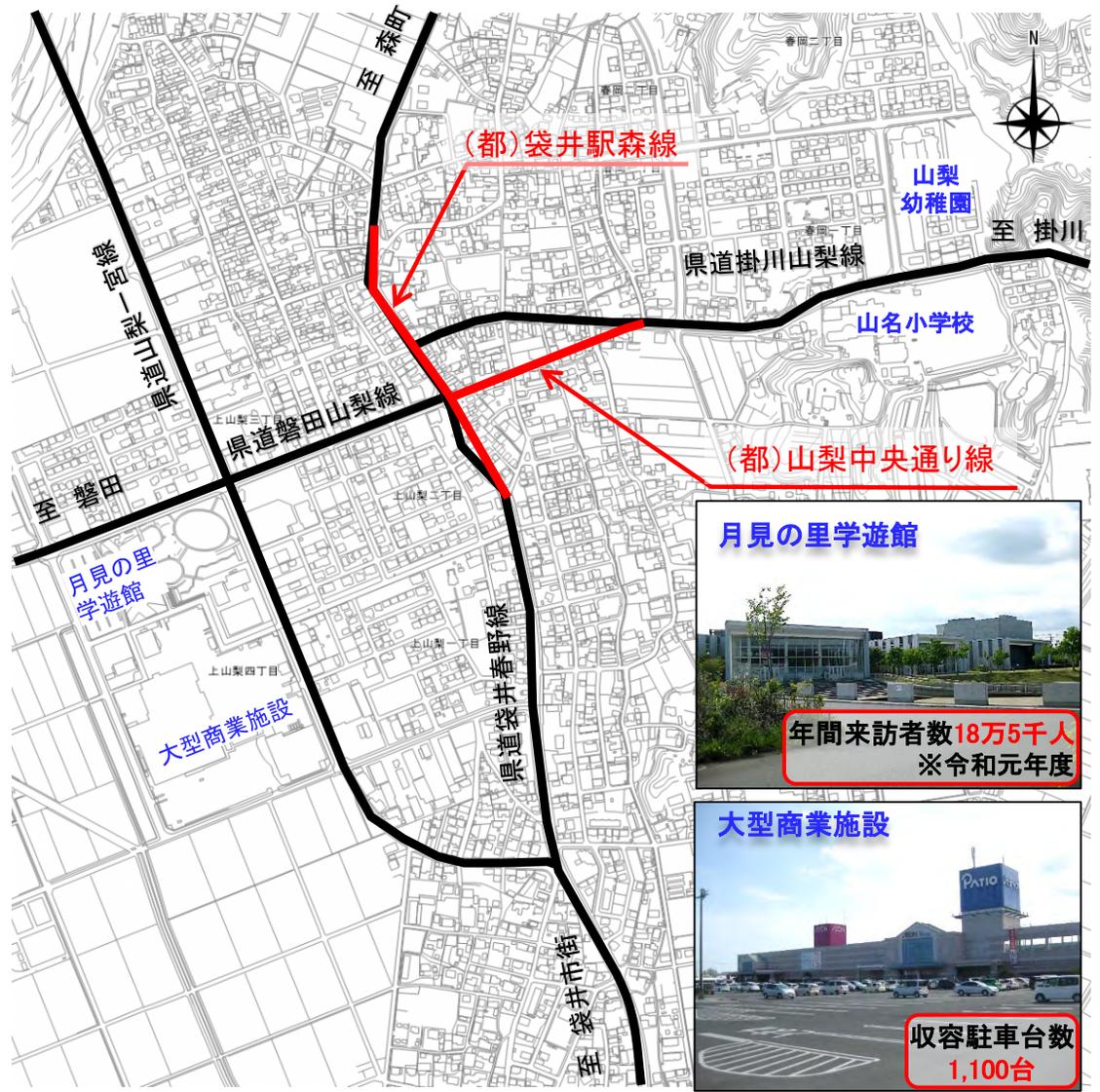
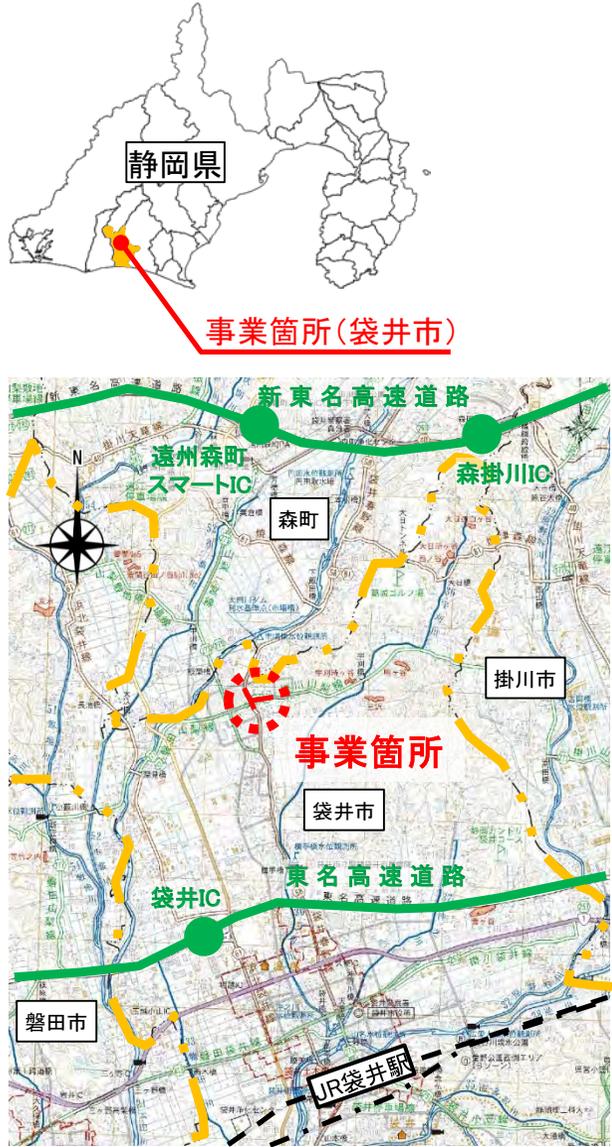


事業概要

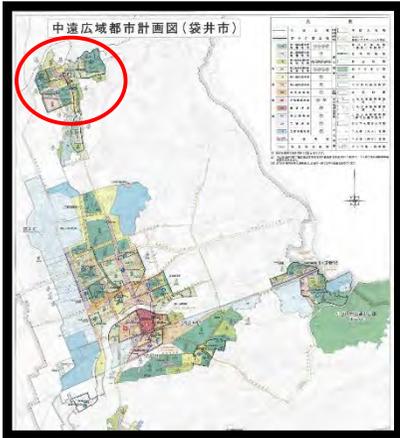
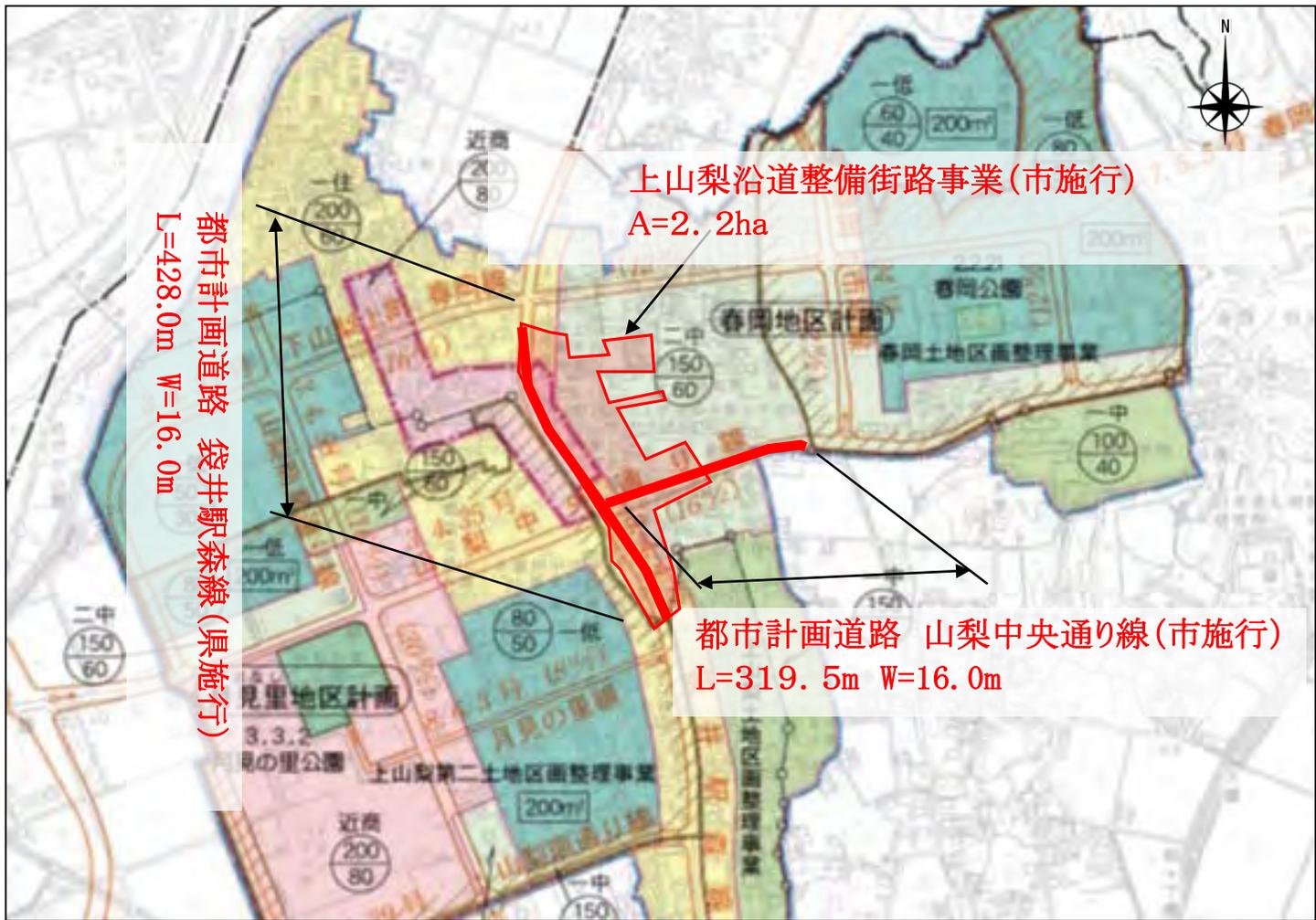
(静岡県・袋井市：袋井駅森線・山梨中央通り線)

応募No.	5		
事業主体	静岡県・袋井市	事業箇所	静岡県袋井市上山梨、上山梨二丁目、上山梨三丁目、春岡、春岡一丁目地内
応募者名	静岡県袋井土木事務所都市計画課、袋井市役所都市整備課		
ふりがな 事業名称	<small>ちゅうえんこういき と し けいかく どうろ じぎょう</small> <small>ふくろい えき もり せん</small> 中遠広域都市計画道路事業 3・4・4号 袋井駅森線(静岡県施工) <small>ちゅうえんこういき と し けいかく どうろ じぎょう</small> <small>やま なしちゅうおうどおり せん</small> 中遠広域都市計画道路事業 3・4・35号 山梨中央通り線(袋井市施工) <small>ふくろ い し かみやまなし えんどうせい び がいる じ ぎょう</small> 袋井市上山梨沿道整備街路事業(袋井市施工)		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業箇所はJR袋井駅北5.5kmに位置し、月見の里学遊館(複合型生涯学習施設)や大型商業施設を中心にした文化・商業機能が充実する市の副次核であり、周辺で施行された土地区画整理事業により急速に市街地が形成され交通量が增大していた。近隣に小学校・幼稚園が立地し、事業区間は通学・通園路にもなっているが、歩道が無く道路が大きく蛇行し見通しが悪いなど、安全な道路空間の整備が地域の課題であった。また、事業区間内には、県道の交差点が連続し自動車交通が集中しているが、十分な右折帯が確保されていないため朝夕を中心に慢性的な交通渋滞を招いていた。</p> <p>このため、(都)袋井駅森線と(都)山梨中央通り線を一体的に整備し、安全な道路空間の確保と交通渋滞の解消(整備前後で走行時間の100秒程度短縮)を図ったものである。また、地権者ニーズに対応し、地域コミュニティの維持を図るため、街路事業を補完する沿道整備街路事業を導入した。</p>		
事業規模	事業延長(km)	袋井駅森線 L=428m、山梨中央通り線 L=319.5m、袋井市上山梨沿道整備街路事業 A=2.2ha	
	幅員(m)	袋井駅森線・山梨中央通り線 W=16.0m~17.0m(2車線)	
	事業期間(和暦)	平成25年度~令和2年度	
	事業費(億円)	約23億円	
URL	-		

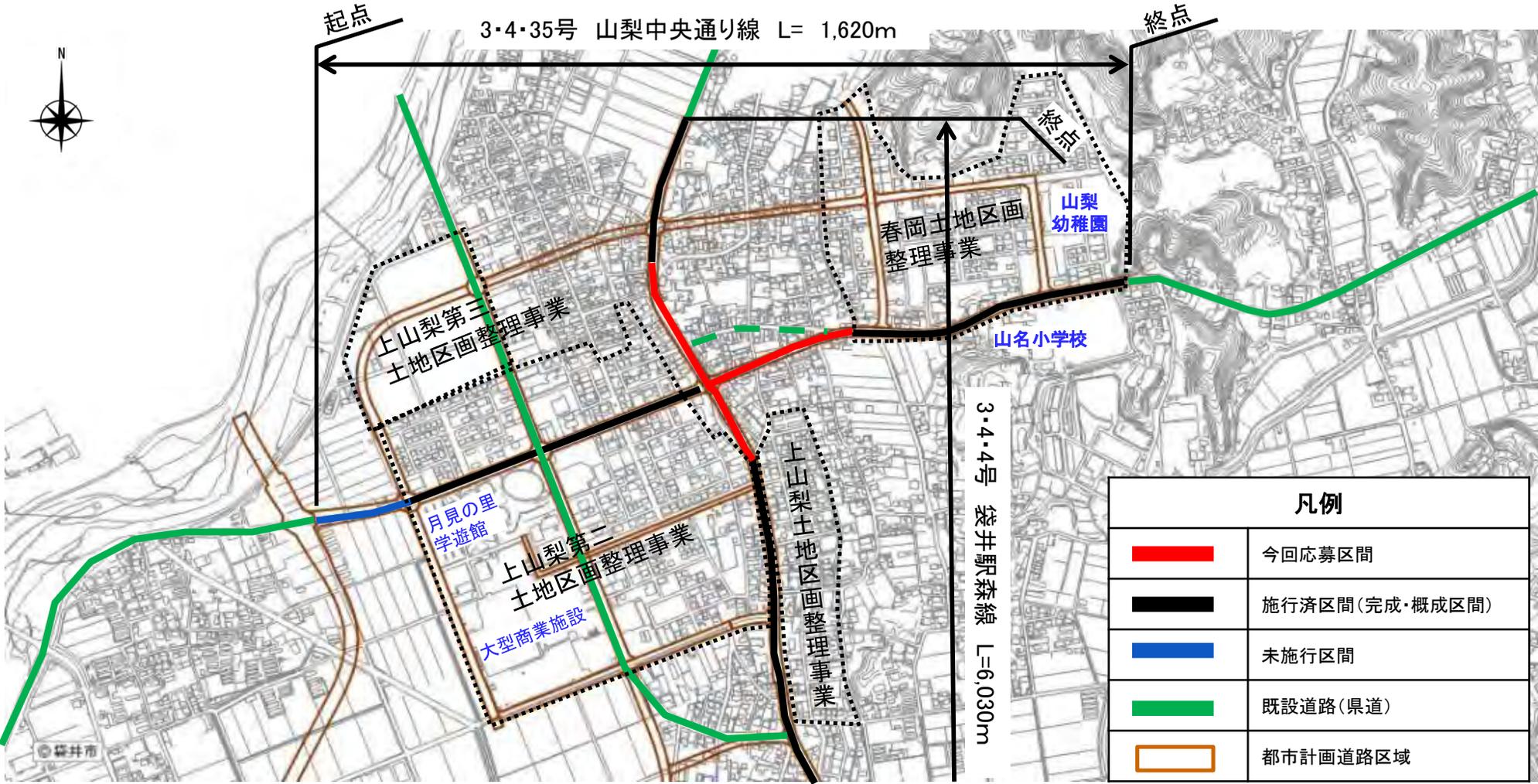
事業位置図



都市計画図(用途地域図)



路線全体の進捗状況



平面図

事業前



事業後

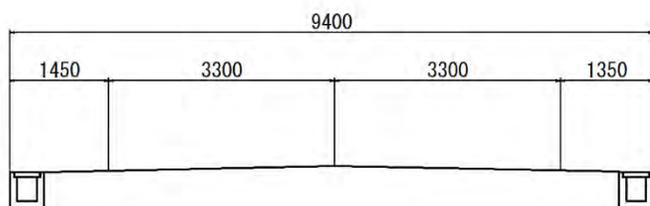


市街化予想図	
凡例	
	施行地区界
	区画道路
	水路
	住宅地
	商業地
	墓地
	都市運営施設
	神社

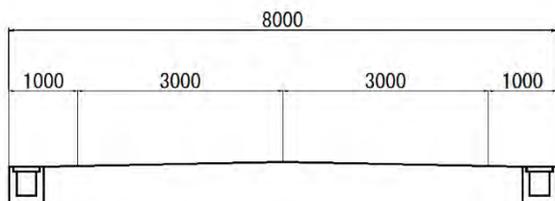
横断図

事業前

(都)袋井駅森線
(県道袋井春野線)

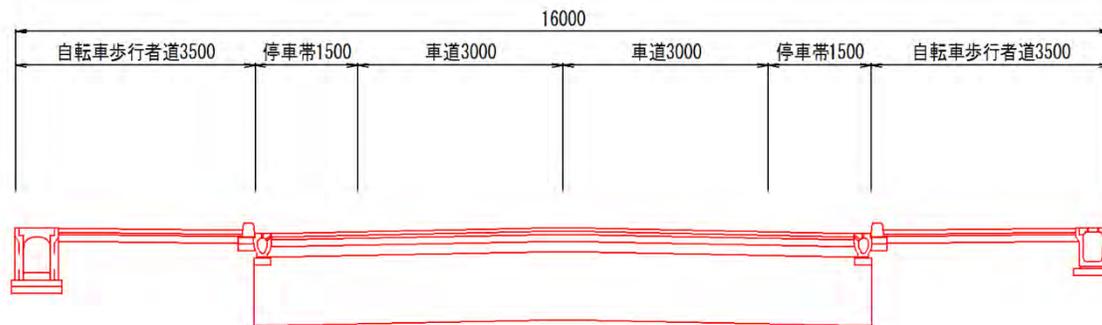


(都)山梨中央通り線
(県道掛川山梨線)

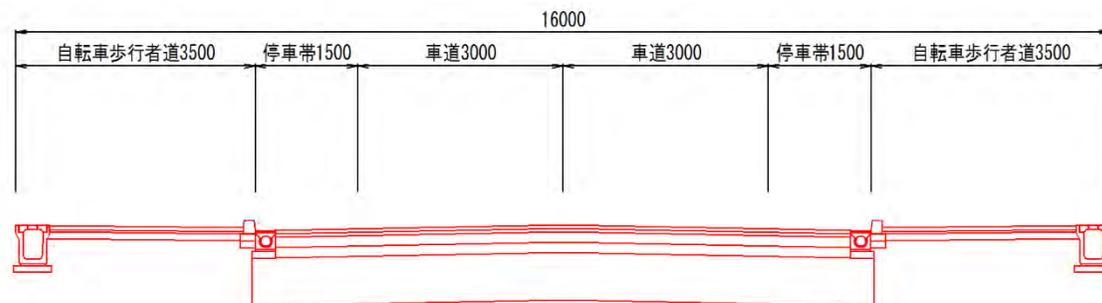


事業後

(都)袋井駅森線



(都)山梨中央通り線



事業前写真



写真①

平成25年7月撮影



写真②

平成25年7月撮影



写真③

平成25年7月撮影

事業後写真



写真①

令和3年10月撮影



写真②

令和3年10月撮影



写真③

令和3年10月撮影

事業前写真

事業後写真



写真④

平成25年7月撮影



写真④

令和3年10月撮影



写真⑤

平成25年7月撮影



写真⑤

令和3年10月撮影



写真⑥

平成25年7月撮影

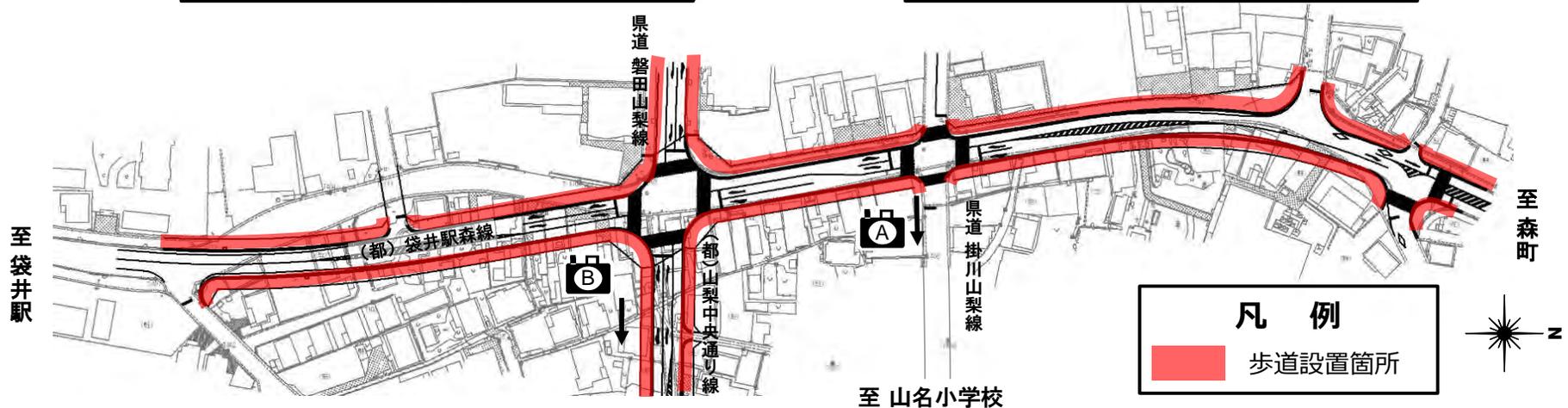


写真⑥

令和3年10月撮影

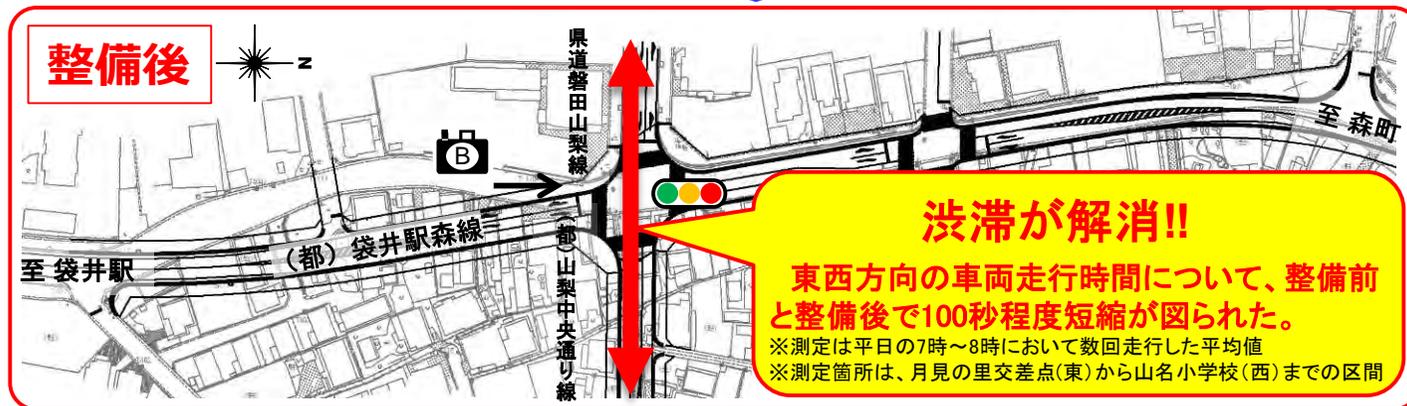
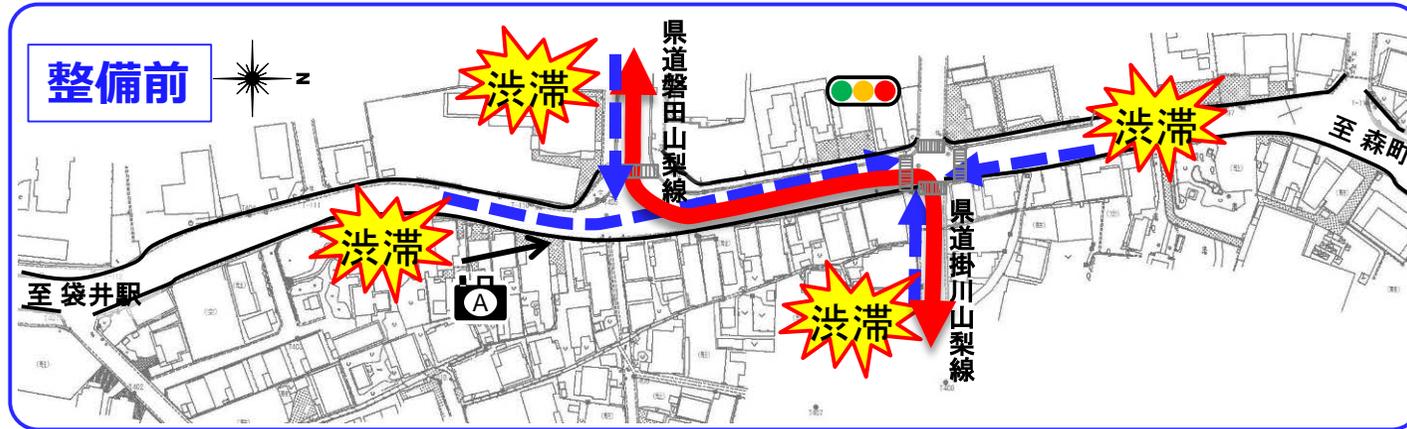
事業効果アピール資料

- 歩道の整備により、自転車・歩行者の安全な通行を確保。



事業効果アピール資料

- (都)袋井駅森線と(都)山梨中央通り線を一体的に整備することで、クランク形状となった交差点を解消し、自動車交通の円滑化が図られた。

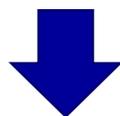


苦勞や工夫等アピール資料

■ 地権者ニーズへ対応し、地域コミュニティを維持するため、『沿道整備街路事業』を導入

▲ 都市計画道路整備に伴う課題

- ・両路線とも住宅密集地であることから、直接買収方式では、不整形な残地や狭小宅地が生じるなど、地権者ニーズへの対応が困難となる。
- ・事前の意向調査の結果、都市計画道路地権者の約7割が残留希望であった。
- ・区域外移転者が多数発生した場合、自治会活動など地域コミュニティの維持が困難となる。



土地区画整理の換地手法を取り入れることにより…

◎ 街路整備事業を補完する「沿道整備街路事業」にて解決！

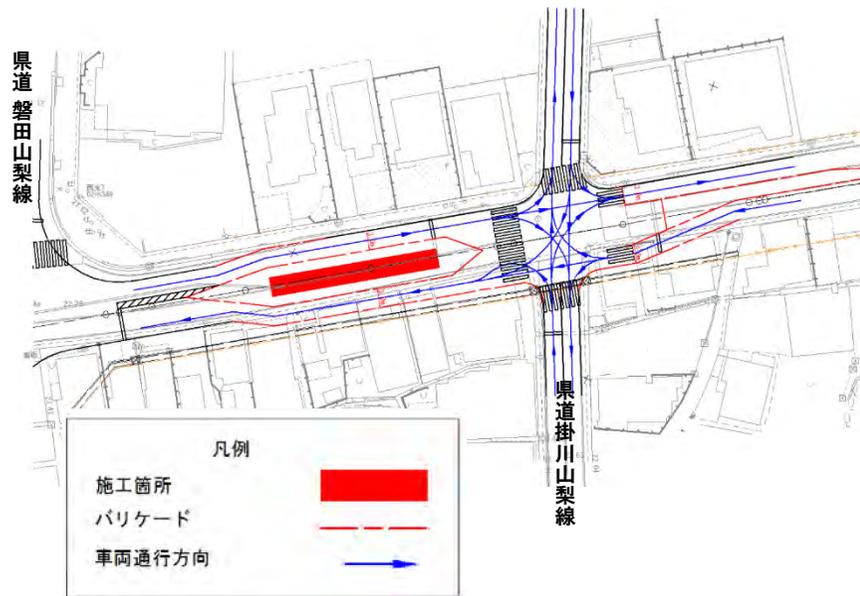
- ・沿道整備街路事業の換地手法を用いることにより、移転先用地を創出。
- ・沿道整備街路事業導入のため、平成20年度から検討会を立ち上げ整備手法の検討を地元と協議し、平成28年度の事業認可取得から4年間で計画的に都市計画道路事業用地を取得することができた。

苦労や工夫等アピール資料

■ 対面交通を確保した現道工事の実施

(都)袋井駅森線は袋井市と森町を繋ぐ主要幹線道路であり、当該箇所は渋滞が慢性的に発生しており、現道交通への影響を最小限に抑えるため、対面交通を確保した狭隘な施工スペースにて工事を実施した。また、県道掛川山梨線との交差点部は平日は大型車の往来があるため、地元住民と協議して土日での施工を行った。

施工業者の綿密な地元調整や安全対策により工事に起因する事故なく事業を完了できた。



施工参考図



施工状況写真

受賞歴・報道資料

令和2年12月23日(水) 中日新聞

令和2年12月23日(水) 静岡新聞

交通渋滞 解消に期待

「袋井駅森線」と「山梨中央通り線」

車道幅9m、歩道3.5m 供用開始



県と袋井市が連携して同市山梨・春岡地区で整備を進めてきた都市計画道路「袋井駅森線（県道袋井春野線）」と、「山梨中央通り線」が取り合い部分を除いて完成し、二十二日午後二時から本格供用が始まった。市街地北部を横断する県道掛川山梨線と県道磐田山梨線の間が直線の片側一車線で結ばれ、交通渋滞の解消が期待される。

これまで掛川山梨線と磐田山梨線をつなぐ道はクラック状で道路幅も狭く、慢性的な渋滞が発生。歩道がないことから、通学児童ら歩行者の危険性が指摘されていた。新たに整備された袋井駅森線は延長四百二十八m、山梨中央通り線は同三百十九m。いずれも車道幅九mで両側に三・五mの歩道を設け、自動車走行の円滑化と歩行者の安全確保を図った。

整備には沿道整備街路事業の手法を採用。都市計画道路の部分だけ用地を買収する街路事業と、都市計画道路と沿道の一定の区域について土地

の入れ替えを行う「土地区画整理事業を組み合わせ、不整形な残地や狭小宅地などをさまざまな課題に対応した。総事業費は約二十八億円。

県の担当者は「沿道整備街路事業を導入することで、これからもスムーズな事業の進捗を図ってきたい」と話した。（土屋祐二）

県と袋井市が2011と掛川山梨線を直線で連結するほか、袋井駅から駅森線の道幅を広げて歩道を整備。慢性的な渋滞解消と歩行者の安全性向上を狙う。

整備区間は袋井駅森線が約430mで、山梨中央通り線が約320m。いずれも片側一車線で、幅3・5mの歩道を両側に整備した道幅は計16m。総事業費は約28億円。

整備手法には、土地を買収する「直接買収方式」と土地区画整理の道路整備で一連の課題解消が期待される。

袋井市は「沿道整備街路事業」を導入した。事業開始前の08年に地元住民らと共に検討委員会を立ち上げ、住民の意向を事前に確認した。

県と同市によると、袋井駅森線と県道掛川山梨線は、付近の山小児童の通学路だったに不安があった。道幅が狭いことから、右折待ちの大型車両などに由来する慢性的な渋滞も発生していた。今回通り線が県道掛川山梨線として管理される。

（袋井支局・駒木千尋）



都市計画道路が本格供用

県と袋井市整備 渋滞解消に期待

県と袋井市が2011と掛川山梨線を直線で連結するほか、袋井駅から駅森線の道幅を広げて歩道を整備。慢性的な渋滞解消と歩行者の安全性向上を狙う。

整備区間は袋井駅森線が約430mで、山梨中央通り線が約320m。いずれも片側一車線で、幅3・5mの歩道を両側に整備した道幅は計16m。総事業費は約28億円。

整備手法には、土地を買収する「直接買収方式」と土地区画整理の道路整備で一連の課題解消が期待される。

袋井市は「沿道整備街路事業」を導入した。事業開始前の08年に地元住民らと共に検討委員会を立ち上げ、住民の意向を事前に確認した。

県と同市によると、袋井駅森線と県道掛川山梨線は、付近の山小児童の通学路だったに不安があった。道幅が狭いことから、右折待ちの大型車両などに由来する慢性的な渋滞も発生していた。今回通り線が県道掛川山梨線として管理される。

（袋井支局・駒木千尋）



受賞歴・報道資料

令和2年2月10日(水) 建通新聞(静岡)

静岡県袋井土木事務所 袋井市

沿道整備街路事業 上山梨交差点が開通

静岡県と袋井市が整備を進めてきた都市計画道路山梨中央通り線(市道下町4号線)と都市計画道路袋井駅森線(県道袋井春野線)の整備が完了した。

道路拡幅と歩道整備を実施した都市計画道路山梨中央通り線が開通したことにより、東側を延びる県道掛川山梨線と西側を延びる県道磐田山梨線が一直線で結ばれることになった。

併せて、南北に延びる都市計画道路袋井駅森線の道路拡幅と歩道整備を実施。両路線の整備により慢性的な渋滞の緩和と歩行者の安全を確保した。

静岡県が事業主体として進めた袋井駅森線の延長は42.8%。事業期間は2013年度から2021年度。袋井市が事業

主体として進めた山梨中央通り線の延長は31.9%。事業期間は14年度から21年度。いずれの路線も車道幅員が9%と3.5%の歩道を両側に設置し、標準幅員は16%となった。

この事業の一環で、山梨中央通り線と袋井駅森線が接続することで新たな上山梨交差点が誕生。20年12月22日に開通を迎えた。

同事業は、従来の土地の直接買収方式に加えて、袋井市が「沿道整備街路事業」を採用。不整形な残地や狭路(きょうあい)な宅地などの地権者の現地残留希望や代替地希望に柔軟に対応し、幹線道路と沿道地域を一体的に整備することで早期の事業完了を可能とした。

静岡県内で5例目となる「沿道整備街路事業」を活用し、静岡県袋井土木事務所が整備した都市計画道路袋井駅森線と袋井市が整備した山梨中央通り線が開通。新たな上山梨交差点が開通した。都市計画道路に沿って、二つの土地区画整理事業と沿道街路整備事業により完成した。



山梨中央通り線を東側から望む



上山梨交差点



「ごあいさつ」

静岡県袋井土木事務所 古梶 隆宏 所長

立寄の、皆さまに、お礼申し上げます。また、日頃より袋井土木事務所の事業推進に格別

習施設や大型商業施設を中心とした文化・商業機能の充実する市の地域拠点であり、周辺で施行された土地区画整理事業により急速に市街化が形成されたことから、歩行者、自転車の交通量が增大しています。このため県と袋井市が連携し、都市計画道路袋井駅森線および上山梨中央通り線が開通することにより、地域の活性化が期待されています。

※令和2年12月22日に開通式の開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止した。